

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4271600639		
法人名	有限会社 あすなろ		
事業所名	有限会社 あすなろ グループホーム まごころ		
所在地 (電話番号)	長崎県五島市富江町職人307-2 (電話) 0959-75-3111		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 2日	評価確定日	平成 21年 2月 16日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(平成 20年 9月 10日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人財団健友会五島ふれあい診療所、近藤歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長自身の思いを含め、“思いやりの心を持つこと、そしてまごころを込めてお世話していくこと”をもとに名づけられた『グループホームまごころ』。まごころと優しさに包まれて海と緑に恵まれた環境の中で、ご利用者の方々が食事作りや掃除、畑仕事や裁縫などの趣味や特技を活かし、地域の方々にも支えていただきながら、ほのぼのとした環境とアットホームな雰囲気の中で日々過ごされている。ご利用者のご希望に応じて、ご自宅や行きつけの美容院、親族の家等にお連れしたり、地域のお祭りの際は御興にホームに寄っていただき、地域の方々も招いて“振る舞い”をする等、徐々に地域との交流も増え、さらにホームに対する理解も深まってきている。天井が高く、圧迫感を感じさせない広めのリビングには居心地よさそうに過ごされているご利用者も見受けられる。またご利用者同士の交流も盛んであり、日中の多くをリビングで過ごされており、皆で輪になって歌や体操、レクリエーション等を楽しまれている。地域との関わりも大事にしながら、ご利用者の心を喜びで満たすことをめざしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	各ユニットの管理者を中心として全職員で話し合った改善に向けた取り組みとして、『個別具体的な介護計画』については、よりケア内容を具体化するために、ホーム独自で情報収集用紙を作成した。また、ご利用者のご希望を聴取し、より具体的なサービス実施内容を把握するための『個別介護手順書』の作成にも取り組んだ。また、これまでご利用者の運営推進会議への参加はなかったが、今年からお身体に無理のない形で、ご利用者にも参加していただくようにしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、事務長、管理者、職員ともに、評価の意義を理解しており、積極的に取り組んでいる。今回の自己評価も各ユニットの管理者を中心として、全職員の意見が反映できるような取り組みを実践できており、管理者より「難しく考えず、思ったことをそのまま書いてください」等の説明を行った上での自己評価であったため、普段の職員の気持ちやケア内容をしっかり振り返ることができ、良い機会となった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回、定期的に運営推進会議が開催できている。昨年の外部評価以降、出席者を集うために積極的に町内会長や民生委員、市の職員等にも声をかけることで参加いただけており、ご家族やご利用者自身の参加も実施できている。会議では、行事の報告やご利用者が困っていること(外出時のトイレがないこと)等が挙がり、いただいたご意見はその都度ミーティングにて全職員に報告し、検討すると共に改善につなげられるように努めている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族にホームへ足を運んでいただいた際や、管理者がご利用者の自宅訪問等で出来る限り直接お会いした際に、ご相談やご意見を聞くように心がけている。また意見箱の設置も行なっているが、実際にご家族より苦情をいただいたことはなく、ご相談をいただくことも数少ない。しかし、ご家族よりケアに関するご意見をいただけたこともあり、意見を言いやすい環境に近づいてきているのではないかと手応えを感じている。今後もご家族からの声をしっかり汲み取っていきたいと考えている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りの御興にホームに寄っていただいたり、ホームで行う敬老会にはご家族や民生委員、ボランティア等の方々に参加していただく等、徐々に地域の方々との関係やホームに対する理解が深まってきている。最近では町内会長より「ホーム内で幼稚園児の出し物はご利用者が喜ばれるのではないのでしょうか?」との貴重なご意見もいただくことができた。地域の方々との日常的な挨拶も気持ちよく交わされており、小、中、高校生の職場体験やサマースクールも実施されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年のホーム開設時に、施設長と事務長が、それぞれの思いを込め、『思いやりの心でまごころの介護』という理念を作った。理念には、より細かい内容を示した前文が付けられており、その中に『地域社会から分離されず』という文言があり、また、『自分のできる事は自分で一生懸命していただく』という中に、自宅で生活されていた時の役割や習慣の継続を図る姿勢が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が目にしやすい場所に理念を掲示しており、日頃から全職員が『まごころ』という気持ちを持ち、またホームの名前自体が、理念に謳われている『まごころ』であり、職員は常に理念を意識してケアを行なっている。ご利用者主体に、自然に生活していただくためにも、ミーティングでは必ず理念の再確認を行なっている。これまでケア経験のない新規職員に対しても指導等をしながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設してから地域のお祭りや清掃等、さまざまな活動へ参加したり、ホームでの敬老会等にご家族や地域の方々、民生委員等をお誘いし続けていることで、徐々に地域の方々のホームに対する理解が深まってきている。先日は町内会長より「今度は幼稚園の園児の出し物も考えてみてはどうですか?」とのご提案もいただき、交流は深まっていくばかりである。また、地域の方々の日常的な挨拶も気持ちよく交わされており、小、中、高校生の職場体験やサマースクールも実施されている。	○	徐々に地域の方々からのホームへの理解が深まりつつあるため、今後も地域の行事への参加を継続していく。また地域の方々からのご意見やご提案をもとに、さまざまな活動につなげていけることを期待したい。また今後は幼稚園児との交流等も予定されている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、事務長、管理者、職員ともに、評価の意義を理解しており、自己評価には積極的に取り組んでいる。今回の自己評価も2人の管理者を中心として、全職員の意見が反映させるような取り組みが実践できている。前回の評価を活かした取り組みとしては、“個別具体的な介護計画”について、ホーム独自で情報収集用紙を作成するとともに、より具体的なサービス内容を把握するために、“個別介護手順書”の作成も行なった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、定期的に会議が開催されている。昨年の外部評価以降、出席者を集うために積極的に町内会長や民生委員、市の職員等にもお声をかけることで参加いただけており、ご家族やご利用者自身にも参加していただけている。会議では、行事のご報告やご利用者が困っていること(外出時のトイレがないこと等)が挙がり、会議の中で改善策を話し合っている。会議以外で解決できるご意見は、その都度ミーティングにて全職員に報告し、検討すると共に改善につなげられるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町村合併後は市との連携があまりとれなかった時期もあったが、平成20年4月より市の職員が地元で詳しい方であるとともに、相談もしやすく、後期高齢者医療制度や権利擁護事業等の制度の説明を引き受けて下さっている。また「何かホームの行事がありましたら教えてください。参加させていただきます」等とお声かけして下さい、さまざまなことに対して親身に相談にのっていただいている。今後もさらなる連携に期待できる状況である。	○	後期高齢者医療制度や権利擁護事業等の説明に市の職員の方からホームに来ていただける予定である。またホームが主催する行事には「日曜日でも参加させていただきます」とのお言葉もいただいている。今後、さらに市の職員との連携を図ることで、サービスの質の向上につながることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	基本的に、利用料の支払いは振込みでなく、毎月ご家族にホームの方へ直接お持ちいただきしており、ほぼ全ご家族が月1回来訪されている。その際、暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の説明、および新規職員が入った時は、ご報告や紹介を行なっている。また毎月1回、各ユニットの管理者がご利用者の自宅訪問を行なっており、受診結果や暮らしぶり等、個々に合わせたご報告を行ない、ご本人に同行して頂くこともある。遠方に住まれているご家族に対しては電話にて近況報告を行ない、その際、ご本人とも電話にてお話しして頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や各ユニットの管理者がご利用者のご自宅を訪問時、また運営推進会議の席等で、ご家族より、ご意見やご要望をお聞きしている。さまざまなご家族からご意見を頂けるよう、運営推進会議の『家族代表メンバー』を固定化せず、開催毎に全ご家族にお知らせし、ご都合のいいご家族に参加頂くようにしている。また、ホームの玄関入口に意見箱を設置している。これまでご意見箱を通じてのご家族から苦情やご意見を頂いたことはないが、口頭にて水分補給の方法などご意見を頂いたこともあり、早速ケアの中に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務希望には極力応じ、また個人面談も行ない、主に各ユニット管理者が職員の悩みや相談を聞くようにしている。ほぼ全員が参加できるような食事会も開催しており、より働きやすい環境作りに努めている。原則ユニット間の異動は行なっていないものの、ここ1年、3名程の退職に伴い、やむを得ずユニット間異動を数名行なったが、毎日のレクリエーションは合同で行なっているため、ご利用者は他のユニットの職員にも馴染まれておられ、特に問題はみられなかった。また、異動の際は、引継ぎを細やかに行ない、ご利用者への影響を最小限にするように努めた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、サービスの質の向上のためには職員の研修が大切であるとの思いから、ホームにて内部研修を行う他、県や市からFAX等で送られてきた研修の情報より、県や市が主催する研修に参加させている。どの職員がどの研修に参加するかは、各職員のレベルを把握している各ユニットの管理者と相談して決めている。また外部研修後はミーティングにて研修に参加できなかった職員のためにも、必ず伝達研修を行ない、全職員のケアの質の向上につながるよう取り組んでいる。	○	施設長や各ユニットの管理者は職員1人1人のレベルを把握しているが、段階に応じて育成するための計画を作成するまでには至っていない。今後は1人1人の段階的な育成計画を作成することで、より職員の質の向上につながることに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、同業者との交流の意義を重要視しており、自ら市の協議会の役員を務める他、事務長、ご利用者とともに他ホームの行事に招かれ訪問することもある。また職員は、他のホームとの合同開催による事例検討等の研修にて、様々な情報交換を行なうことができおり、その際、相談しやすい他のホームの管理者の存在もある。同業者と交流する良い機会が保てており、ケアの質の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用開始前に事務長が、ご利用者のご自宅や入院先の病院等へ訪問し、顔馴染みの関係作りに努めている。ご希望やこれまでの生活習慣をご利用者、ご家族からお聞きし、その情報をもとに、ホームに早く慣れていただくためのケアに活かしている。また地元出身の方が多いため、顔見知りの方が既にご利用されておられることも多く、話相手になって頂いたり、職員もご利用者に安心して頂くために寄り添い、ホームの楽しさや心地よさをご理解頂けるような話をしている。一時的にホームへ宿泊したり、夜だけのご自宅に帰る等の対応を図り、無理のない形で少しずつホームに馴染んで頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、地元の昔ながらの情報や調理の味付け方法、魚のさばき方や野菜の美味しい見分け方等、ご利用者から学ぶことは多い。また職員が忙しそうにしていると、「大丈夫ね、あんたたちがおって本当によかったよ…」等の優しいお言葉をかけて下さることもあり、一緒に笑い、楽しみ、家族のような雰囲気で共に過ごさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中でさりげなくご利用者から話をお伺いしながら、ご希望やご意向を確認するようにしている。センター方式の焦点情報を使用しながら、独自にアセスメント用紙を作成したことで、情報も見やすくなり、職員間の情報共有やご利用者の状態変化も分かりやすくなっている。介護計画の目標には、ご利用者自身の願いが表現されており、それに沿ったケアに努めることができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の『目標』に、ご利用者自身の希望を明記し、それを実現するために必要なケア内容を、毎月のミーティングで再確認し、全職員で検討している。ご家族の意見は月1回、管理者が行う自宅訪問時に必ずお聞きしており、主治医や管理栄養士等からも様々なご意見もいただき、医療面、栄養面でいただいた助言も、計画に反映させている。地域での暮らしの継続を図った個別ケアについては、おおまかではあるが計画に反映されてきており、よりご利用者の希望に沿える介護計画に近づいている。	○	より具体的な個別介護手順書の作成に取り組んでおられる状況である。今後もケアの方法や留意点を統一していくためにも、ご本人、ご家族のご希望に添った具体的なケア内容が盛り込まれた個別手順書に近づいていくことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則、介護計画の見直しは、おおむね3ヶ月単位で行なっているが、ご利用者やご家族からのご希望がある際や、ご利用者の状態変化があった際は、その都度計画の見直しを行ない、状態に即した新たな計画を作成している。毎月のミーティングで、変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いを、全ご利用者について行なっている。アセスメントの充実により、ケア目標や内容が明確になり、評価が具体的に行えるようになっていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者のご希望に合わせ、お墓参りやお花見、自宅訪問、美容院等への外出支援を行なっている。お盆やお正月に帰省される方の日程調整や準備等の支援も行なっている。また、日中自宅でお1人になられ、不安がられる方や地域の独居高齢者に対して、『ホームに気軽に遊びに来ていただきたい』と施設長の考えもあり、地域への呼びかけにより、実際にホームへ足を運んで下さった方もおられた。地域の安心の拠り所として地域貢献への取り組みを続けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居後も、ご本人やご家族が希望する医療機関を主治医として継続していただいている。また、ご家族が希望される場合以外は、ホームで通院介助を行なっている。各ご利用者の主治医と密接な関係を築くための取り組みを継続してきたことで、最近では病院の看護師に間に入らせていただきながらも、主治医と相談できる関係も築けるようになってきている。緊急時にはよく話を聞いていただける主治医もおられ、ご利用者やご家族の安心のためにも医療機関との連携維持に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者やご家族がご希望される限りは、施設長をはじめ、全職員が『最期までお世話させていただきたい』という思いを強く持っている。これまでもご家族のご希望により、かなり重度な状態までお世話させていただいたこともある。ご利用開始時にはターミナルケアに対してのご意見をご家族等からしっかりお聞きしており、各ご利用者の主治医との連携も図れつつある。ご利用者やご家族の『できる限り最期まで』という思いを叶えるためのターミナルケアに向けての方針が職員全員で共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者をお呼びする時は、尊敬の念をもって苗字でお呼びするようにしている。日常のケアの中でも、排泄の際はカーテンをしめること、ご利用者のお部屋に入室する際は声かけやノックをすることを徹底している。時に言葉遣いが馴れ合いになりがちな職員もいるが、その時は職員同士で注意し合いながら、言葉遣いに気をつけている。また各ユニットの管理者が主体となり定期的に個人情報の内部研修を実施しており、個人情報保護についても、書類の管理のルールに従い徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先させず、無理強いせず、個々人のペースで過ごして頂いている。入浴を嫌がられるご利用者に対しても翌日に入って頂いたり、時間をおいて再度声をかけたりする等の対応を行なっている。ご要望があれば出勤している職員で散歩の支援を行ない、どうしても行けない時間帯であればご利用者に確認して時間をずらすなどの対応を行っている。意思表示が少なめのご利用者に対しても傍に寄り添いながら言葉かけを行ない、日頃の表情等から出来る限り思いや意向を汲み取るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや配膳、下膳、後片付け等に参加していただいている。また、日常の会話の中で食べたい物をお聞きしたり、予めご利用者の好みも把握しており、日々の献立に反映させている。ホームの庭で栽培している野菜(ほうれん草、にら、ねぎ、しそ等)を採り入れたり、旬の野菜を献立に盛り込んだり、ご利用者に季節感も味わっていただけるように配慮している。郷土料理のきびなごのいり焼きやみな味噌はご利用者に大好評である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるよう、常に浴槽にはお湯が準備されている。体力的に毎日入られるご利用者はおられないが、基本的に週3回(13:00~16:00)を入浴時間と決めている。「入浴したい…」と要望があれば、その都度柔軟に対応している。また仲の良いご利用者同士には、ご希望により一緒に入浴していただいたり、入浴時間や順番の配慮もしており、入浴を楽しんでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や調理、掃除のお手伝い、花の水遣り等、役割を持ってホームの活動に参加いただいている。裁縫が得意な利用者には、雑巾を縫っていただいたり、クッションを作っていたり、ホームで使わせていただいている。人形作りや折り紙での小物作りを積極的にされているご利用者もおられ、ホームに来訪された子供達にプレゼントしたり、地域の作品展に出品したりしている。ご利用者の希望される時は、外に出て体操をしたり、外のベンチに座ってお話をしたり、いつでも戸外に出て気分転換できる支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者1人1人のご希望にそって、入居前から習慣とされていた兄弟、友人、親戚等の家や自宅、美容院、洋品店等へ定期的に外出していただいている。また毎週日曜日に、ご家族が来訪され、ドライブを楽しまれているご利用者もおられる。意思疎通の困難なご利用者に対しては、体調に合わせて月に1、2回程車椅子に乗って職員の介助のもと、ホーム周辺の散歩に出かけており、外出した時には、気持ちよさそうな表情や笑みが見られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、裏口、出入り可能なガラス戸等のすべてにおいて、日中は施錠していない。全職員が自宅同様に鍵をあけたりかけたりしている。ご利用者がホームの見える範囲の所まで1人で出かけられることもあるが、職員間で連携して見守りのスキができないように心がけている。またご利用者がお1人で外出された時の協力依頼も地域に対して前もって行っているため、実際に近所の方々が声かけや報告を下さっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年ごとに、消防署の協力を得ながら、ご利用者も参加いただき、避難訓練を行っている。災害時には、町内会長や地区の消防団にも連絡がいく通報システムを導入している。これまで避難訓練は、ホーム内で行うことしか考えていなかったが、運営推進会議で、ご家族から「手伝いますよ」という意見をいただいたことから、次回からはご家族にも避難訓練に参加していただく予定となっている。日頃から毛布、懐中電灯やソーセージ、シーチキン等の食料品の備蓄は行っている。	○	次回の避難訓練時からは、地域の方々やご家族にお知らせし、参加・協力を頂く予定である。備蓄はあるものの、水等は確保できておらず、十分とは言えない。今後、職員同士で話し合いをしたり、他グループホームと情報交換を行いながら、災害時備蓄としてどのような物をどのくらい備えると良いか等、細かな所まで検討し、順次、整備していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の外部評価以降、全職員で順番に献立、検査係を決め、食材が重ならないように、栄養が偏らないように確認している。また毎月1回、市の管理栄養士が来訪して下さり、献立のチェックやカロリー面のアドバイス、また「乳製品や牛乳を増やしたほうがいい、納豆と豆腐は重ならない方がいい」等の細かなアドバイスをいただけており、食事摂取、水分摂取量も含め個々人の栄養バランスに配慮できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色について、刺激が強すぎることがないように配慮しながらも、生活感・季節感は感じられるようにしている。1ユニットの居間は広めで、大きめの歩行器を使用されている方も数名おられるので、敢えて観葉植物等は置かないようにしている。木製の家具や各居室の扉に提げられた藍染の暖簾により、落ち着いた雰囲気を作られている。広い居間では圧迫感を感じず、明るく、風通しもよく、自然と居間に足を運ばれるご利用者が多い。加湿器も設置しており、湿度にも配慮しており、ご利用者にとって心地よい環境作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと各居室ごとに、ベッド・寝具を用意しているが、ご利用開始前から、ご本人やご家族へ「何でも使い慣れた物を持ってきてください」とお声かけしている。これまで、使い慣れたタンスやポータブルトイレ、枕等をお持ちになられたご利用者がおられる。居室内には趣味の裁縫のための道具、作りかけの作品等が置かれ、それぞれ異なった雰囲気の居室になっている。		